

都内における放射線量の測定値および 放射線についての Q&A

【測定結果に関すること】

Q 測定値結果については

A これまで、1時間当たり0.035マイクロシーベルト前後で推移してきた。

この数値は、年間で300マイクロシーベルト程度

($0.035 \times 24 \text{ 時間} \times 365 \text{ 日}$)で、自然放射線のレベル。

自然界からばく露する、空気中からの自然放射線量(年間400マイクロシーベルト程度)と比べて同レベル。

【健康影響に関すること】

Q 放射線被曝量と健康影響について

A 1年間の自然界からの放射線被曝量は、宇宙からの放射線、空気や地面、食べ物からの被曝により2,000～5,000マイクロシーベルト程度。

一般的に、放射線被曝量が年間で100,000マイクロシーベルト以下であれば、人の健康や環境に影響がでることはないと言われている。

なお、胸部X線の撮影では、1回あたり60マイクロシーベルト程度の被曝があるとされている。

Q 放射線による汚染が心配です。

A 現在の放射線量は健康に被害を及ぼす量ではないので通常の生活では問題ない。なお、通常時でも自然界からの放射線を、被曝している。

Q 都民が放射能の汚染から身を守るのはどうしたらいいのか。

A 現在の放射線量は健康に被害を及ぼす量ではないので通常の生活では問題ありません。

どうしても心配であれば、外出を控えたり、マスクをしたりすることも身を守る方法のひとつと考えられます。

Q 今後放射線量が上昇したときに子供を外で遊ばせることはやめたほうがいいのか。

A 緊急度が高い場合には防災無線などを使ってお知らせすることも考えられますが、現在のところそのようなレベルではありません。

Q 当日、外に干してあった洗濯物は大丈夫か。

A 都内では、現在、健康影響が懸念されるものではない。どうしても心配ならば、洗濯物を屋内に干すなどの対応をすることが考えられます。

Q 雨や雪にはあたらないほうがよいのか。

A 都内では、現在、健康影響が懸念されるものではない。

【食品について】

Q 都内の家庭菜園等で作っている野菜や農作物は食べても大丈夫か

A 実際に、都内で測定された放射線量（3月15日）は微量であり健康に影響のない値である。そのため、現時点では家庭菜園等で作った農産物を食べても問題ないと考える。また、一般的放射性物質が付着していたとしても、放射性物質は農作物の表面に付着しているため、洗浄することにより、外部の汚れと一緒に落とすことができる。

【医薬品について】

Q 内部被爆した場合の治療薬はあるのか

A 医薬品の内服薬である「安定ヨウ素剤」がある。

Q 安定型ヨウ素剤を服用した方が良いか

A 現在のレベルでは、その必要は全くない。

Q 医薬品内服薬「安定ヨウ素剤」はどこで手に入れられるのか。ドラッグストア等で販売されているのか。

A ドラッグストア等では市販されていない。医療用医薬品であるので、医療機関等で医師の診断をうけた後で、必要時に処方される。

Q 市販の外用医薬品のヨード製剤（ヨードチンキ、ルゴール液等）を飲んでもいいか。

A うがい薬やのどスプレーにもヨウ素が含まれているものもあるが、ヨウ素の含有量も少なく、他の成分も多く含まれており、内服用ではないので、体に有害な作用を及ぼす可能性があるため、飲んではいけない。

(参考)

東京都健康安全研究センター 「身の回りの放射線」

<http://www.tokyo-eiken.go.jp/monitoring/201103/1-1.html>

独立行政法人 放射線医学総合研究所

<http://www.nirs.go.jp/information/info.php?i3>

文部科学省 原子力・放射線安全確保

http://www.mext.go.jp/a_menu/ankenakuho/faq/index.html